

# 「かわせみ会」便り

令和7年3月号  
俳句を楽しむ会



”季語刻変秀句”

【11月度】”艶やかに地に散り敷けり柿落葉”

【12月度】”木枯らしや夜半に雨戸を叩く音”

11月に5人選句が出ました。

冬の訪れを優しく感じさせる柿の落ち葉の絨毯が美しい。

皆さんの投句をお待ちしています！

## 11月度の詠句

日の短か人それぞれの時間割  
妻入院忙ぎ寂しさ一人冬  
冬の空星がにぎわう夜空かな  
高千穂峡滝に煌めく紅葉かな  
大樟の根元明り石路の花  
万歩計頼みの傘寿冬の朝  
冬立ちぬ堂にまみゆる仏たち  
山門をくぐり紅葉や風を絶つ  
冬の風心にささる音色かな



## 12月度の詠句

天仰ぐ省くものなし冬木立  
吹く風の速さに合わせ舞う落葉  
錦秋やいろ鮮やかに他を寄せず  
寒朝の小枝を透かす赤き月  
売り出しの幟はためく街師走  
霜柱一步踏み入るあぜ道か  
冬満月暫し癒しの時ゲット  
紅の色に思わず足止まり  
氷雪降りて慌て逃げ込む道の駅  
右に締め左に緩め冬マフラー

## ◆ 写真を見て一句 ◆

### 【11月】息白し

久に訪い唱ふ心経息し白し  
息し白し朝の目覚めのストレッチ  
朝外湯湯気と戯る息白し  
登山口重きリュックに息白し  
夜明け前我が息白し散歩灯



### 【12月】冬鳥

鴨夫婦岸边に上がり羽休め  
声高く木立に響く冬の鳥  
鴨帰る靄の水面に着水線  
水尾引きつ流れのままのはぐれ鴨  
寄り添うも寂し個もおる浮寝鳥



会員の皆さんへ  
気軽に投句を！  
待ってまーす

担当幹事:園田・金子・川橋・榎木